

学校通信

強い網

2015年2/3月号
 新版 第72号
 編集
 駿台甲府高等学校
 駿台甲府中学校
 駿台甲府小学校

私からの願い

高等学校 校長 酒井 徹哉

卒業おめでとう

3年生の諸君、卒業おめでとう。心からお祝い申し上げます。

これから様々な進路をとるわけですが、駿台甲府高校での学習、部活、そして出合いが、必ずや諸君の人生において、役立つことは間違いのないと思います。

卒業生の保護者の皆様におかれましてもお慶びのことと存じます。三年間あるいは六年間、さらには一二年間にわたって、駿台甲府の教育方針にご理解・ご協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

「絶対に」やめてほしい

卒業式の式辞を少し引用させていただきます。

二〇世紀末以降の国際紛争は、国内における民族間の対立、宗教間・宗派間の対立が目立つ。さらに、国際的なテロ組織の活動が活発化し、同時多発テロを引き起こしている。国際テロ組織は、どこにその中枢があるのか定かではなく、指揮命令系統も不明である。また、何を標的にしているのかさえ不確定なため、世界の多くの人々を恐怖に陥れている。このようなテロ行為に對して、和平の仲介をすることは極めて難しく、どちらかが降伏しない限り終結しないという、最悪の結果が予想される。

これまで、そのような紛争に、直接的に関わりはなかった日本であるが、先般のシリアでの惨劇を目の当たりにし、我々として成せることは何なのかと考えさせられた。過激派テロ組織ISに身を投じた若者で、比較的裕福で、高度な教育を受けた若者であると言われている。経済的には恵まれていても、社会の矛盾や格差に対して疑問を感じている者、自分が評価されずそれに対して不満を持つ者、家族や友人と縁がなく孤立している者、彼らが、その解決方法としてテロ行為を行うことは、完全に間違っている。

かつて、日本国内を震撼させた、オウム真理教事件においても、いわゆるインテリ層が凶悪犯罪を起こす結果となった。なぜ、彼らはカルト教団に入信したのか。このことについて、駿台予備学校論文科講師の最首悟先生は、以前本校で講演をされた際、こう説明されていた。

『人間の心の中には、何かを信じ込むという部分がある。欧米の場合、キリスト教的宗教観がある程度浸透しているの、完全にカルトに支配されることは少ないのだが、日本の場合、そこが空っぽの人間が多く、カルト宗教が入り込んでしまうと完全にマインドコントロールされてしまう。』
 卒業生、在校生諸君のこれからの人生で、どういいう出会いがあつて、どういいう考えを持つかわからないが、テロ行為やテロ組織を賛美し、それを援助し、それに参画することは絶対やめてほしいと強く願う。

大学生の住所問題

先日の新聞で、若者の投票率アップのために、山梨大学の構内に期日前投票所を設置する計画が、進められているとの報道があった。行政だけでなく、学生の組織も計画に加わっているらしく、意義のあるものと感じている。二〇一三年、松山大学に期日前投票所が設置されたのを契機に、全国でその動きが広がっている。

実は、大学生の投票について、かねてから気になっていたことがある。山梨県の大学における県外からの流入率は68%（二〇一三年4月の数値、旺文社教育情報センタ―調べ）である。山梨大学がその平均的な値とすれば、七割弱の学生がその恩恵を受けることに計算上はなる。その場合、該当する県外からの学生が、きちんと住民登録をしているかどうかが問題である。実家の住所のままでは、大学内の投票所を利用することはできない（注）。

逆に、山梨県の生徒が他県の大学に行った場合を考えてみる。山梨県の大学生の流出率は、先程の資料で73%である。彼らは地元から転出して、新たな街で転入手続しているのだろうか、私はずっと気になっていた。

手続きが面倒、あるいは、その他の理由で住所変更していない可能性がかなり高いと予想している。全国で、大学内の期日前投票所が設置される傾向は歓迎するが、結局利用できる学生が少ないということでは、その意味が薄れてしまう。

転居に伴う転出・転入の届は、法的な義務でもある。下宿先が実家と同一県内で、ほぼ毎週土日に帰省するという状況であれば、住所変更しなくてもよいという許容範囲のようである。

住所がそこにはないというのは、災害の時のリスクも大きい。日中いないことの多い

学生は、交番の巡回連絡でもチェックされず、近所付き合いもあまりないと考えられる。阪神淡路大震災の際、倒壊したアパートに埋もれ亡くなった学生は、心配した友人が訪ねてくるまで、誰にも発見さなかつたという話もある。

そもそも、引越して別の街に住むということは、その街のコミュニティの一員になるわけである。学生だから、住民税は払わないだろうが、様々な行政サービスを受ける。そういう意味でも、きちんとその街に住民登録をすべきと思う。

十八歳選挙権が現実

現在開会中の通常国会で、選挙権の年齢を十八歳に引き下げる法案が、可決の見通しになった。すると、二〇一六年に行われる参議院議員選挙において、現在の高校一年生は、誕生日によつては選挙権が得られる。高校生が選挙権を行使できるという日本の選挙制度史上、初の事態となる。

先日、山日新聞がこの件について生徒に取材に来た。二月二〇日付紙面に掲載されているが、高校生諸君は、まだ実感が湧かない、荷が重いという消極的意見もあるが、政治に対して正面から向かってほしいと思う。私はこれまで、授業や生徒に送る言葉としてこう言ってきた。

「選挙権があつても投票に行かないということは、権力者に対して『私は一切文句を言いません、あなたのお好きなようにしてください。』と意思表示をしているようなものなのだ。」

今後、私はこう言い続けて行こうと思つている。

（注）国政選挙の場合、住所のある選挙区に投票用紙の請求を行えば、現在いる場所でも不在者投票はできるが、そこまでやる人はごく少数と考えられる。

高校より

〜担任から卒業生へ〜

【普通科】

3年A組担任 松下 吉宏

ご卒業おめでとうございます。高校卒業は人生の節目の一つです。これから新しいスタートを切り、長い人生を歩んでいくわけですが、平坦な道ばかりでなく多くの試練も待ち受けていることでしょう。人間一人の力は微々たるもので、これからの試験に立ち向かうことはとても大変です。多くの良い仲間を作り感謝の気持ちを忘れることなく、また健康にはくれぐれも注意し、自分の目標に向かって突き進んでください。

3年B組担任 飯島 淳夫

卒業おめでとう。駿台での三年間、六年間、十二年間は充実していましたか。振り返ってみれば本当に早く感じられますね。それぞれにたくさんの楽しかった思い出がよみがえってくると思います。

四月からは一人一人違った、全く新しい生活がスタートします。大人としても扱われ始める中で最後の学生生活です。思いやり自分を磨き楽しむ人生最大のチャンスだと思つて、ぜひ頑張つて下さい。

駿台で得た仲間たちはこれから先もずっと皆さんを支えてくれる貴重な存在であり、われわれ教員もずっと皆さんを応援しています。

3年C組担任 堀江 健太郎

皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは、私が送り出す初めての生徒です。

皆さんと一緒にこの学校へやってきて、教師としての人生を歩み始めました。この3年間は私にとっても刺激的で、学びにあふれたものでした。皆さんはこれからどんな人生を歩んでいくのでしょうか。少しは私の事が記憶に残つたりするのでしょうか。

英語の発音を3回ずつ練習したなあとか、思い出してもらえれば幸いです。人生は山あり谷あり、もういいだろうと思つたところにもまた谷があつたりします。たまには戻つてきてあなたの物語を聞かせてください。

3年D組担任 影山 正美

卒業おめでとう。皆さんの若くてみずみずしいエネルギーを、たくさんいただきました。本当にありがとうございます。教員という職業の、他にはない良い点だと思います。人生の先輩として一言申し述べれば、心身を大事にしてほしい。これに尽きます。健康な身体があれば、何にでも、また何度でも挑戦できます。失敗が成長のバネになる。これが、うらやましいほどの若い皆さんの特権です。おそらく人生のなかで、最も輝ける時です。皆さんの未来を応援しています。がんばってください。

3年E担任 佐々木 英憲

ご卒業おめでとうございます。駿高での3年間はどうか。楽しいことだけではなく、辛いこともあつたと思いますが、だからこそ3年間で確実に成長したのではないのでしょうか。4月から新しい生活が始まりますが、幅広い勉強の中で専門(学問を研究すること)にもこだわり、少々の失敗に挫けることなく、挑戦する気持ちを持

ち続けて突き進んでください。ご活躍を祈っております。

3年F組担任 坂本 哲雄

卒業生の諸君、卒業おめでとうございませう。4月からは高校とは別の場所をホームグラウンドとして活躍されることになり、一人一人の進路は千差万別です。いずれは社会に出て、何らかの形で社会に貢献していくことになりませう。その日が来るまで人によつて、かかる年数は異なると思います。しかし、どのような進路においても、最後まで諦めないことを本日、心の中で誓つてほしいと思います。人生、七転八倒。苦あれば楽あり、楽あれば苦あり。最後に諸君が立派な社会人になって再会できることを楽しみにしています。

3年G組担任 板山 武久

三年生の皆様ご卒業おめでとうございませう。皆さんが入学してきた頃のことを最近ふと思ひ出します。皆さんたちと過ごしてきた時間は自分にとっても貴重な時間となりましたし、これからも良い思い出として残つていくものと思います。ただ皆さん方には未来があります。思い出に浸るのではなく、積極的に新しい世界へその一歩を踏み出してください。

地理の教員から一言

ほとんどの人たちは社会人になるまでもう少し時間があります。この機会を利用してどんどん海外に行つてみてください。

様々な文化に触れることにより、自分の中の世界観が広がり、さらに次のステージに進めるものと思ひます。また外国に行く

ことで日本の良さも十分に知ることができると思ひます。ただ費用に関しては誰にも頼らず自分で稼いでいきましょう。

3年H組担任 保坂 明子

卒業おめでとうございます。初めて授業で出会ったときから、皆さん一人ひとりが大きく成長しましたね。スポーツに勉強にひたむきに打ち込む皆さんの姿を目にし、その成長の過程に少しでも関わることができたことを幸せに思ひます。

四月からの生活は大きく変わります。口うるさい先生はいなくなりますが、社会的責任は重くなります。大きな視野を持ち、人生の中で最も自由に学び、遊び、そして考えることができるこの時間を無駄にせず、にっこりしてください。また、皆さんに会える日を楽しみにしています。

【美術デザイン科】

3年A組担任 渡邊 成美

3年前、教員になって初めて担任をしたクラスの生徒が一回りも二回りも大きくなつてこの度卒業となりました。

皆さんこの三年間はどうかだったでしょう。嫌なことも苦しい事もたくさんあつたと思ひます。学校が嫌いだった生徒もいるかもしれませぬ。でも、担任になって3年間、皆さんの笑顔をずっと見てきました。楽しかったこと、嬉しかったことも同じくらいあつたと思ひます。この先も笑顔を忘れず、駿台から皆さんの活躍が届くことを願っています。

卒業おめでとう。また会いましょう。

中学より

駿中20期生保護者へのメッセージ

三学年主任 柿澤 喜英

駿中20期生も2012年4月5日の入学式から、早いもので、もう3年が経過としていきます。一四五名が、駿台甲府での

中学・高校6年間の生活の折返しまで来ました。入学時の学年通信に「これからの6年間は、色々な意味で、大人への土台作りの時期です。具体的には、基本的な生活習慣を確立し、体力・学力を身に付け、大人らしいものの考え方ができ、自分の言葉で話せるようになってほしいと思っています。そんな皆さん一人一人の人としての土台作りを、私たち学年団は、同級生・先輩や保護者の方々に協力してもらいながら手助けしていきたいと思っています。今日の日の思いを忘れずに、意義のある6年間の成長に向けてスタートしましょう。」と書きました。折返しを迎えた今、どの程度まで到達できているでしょうか。最初だけでなく、毎日毎日、1年間、3年間と実行・継続できたでしょうか。あと3年間、実行・継続できる準備・覚悟はできているでしょうか。これは、生徒たちにだけでなく、私たちにも、当てはまることです。

中学校の最終学年の今年度は、山口教育顧問の墨書に「駿高の核となれ」とある通り、第1チームの2年間に学んだたくさんたのびを活かして、精神力・学力・体力を充実させ、将来の自己の実現に向けて、たくさんさんの情報を収集・取捨選択し、それぞれの進路を考え始め、中学校から高校にスムーズにつながる。そのためにも、思考や行動レベルをより向上させて、自分の責任を果たし、日常生活や学校生活に悔いの無

いように積極的に取組もう。そうすれば結果的に、私たちにについてこいと、後輩たちを、言葉ではなく背中であつてきたことができるようになるはずと、言ってきました。これも、生徒たちだけでなく、私たちも、どこまで結果を出せているのか、謙虚に自己採点しなければならぬことです。

(私を除けば若い)学年団が、思春期を迎えて難しい年頃の生徒たちと楽しい時を共有し、駿台甲府中学校・高等学校6年間の折返しまで到達できたのは、保護者の皆さんの暖かいご理解、ご協力やご支援があったからこそと感謝しております。ありがとうございました。後半戦の3年間もどうぞ宜しくお願い致します。

駿中21期生保護者へのメッセージ

二学年主任 永山 一宏

21期生諸君も駿中に入学してはや2年が経ち、いつの間にか身体も大きくなってすつかり中学生らしくなりました。一昨年の秋頃から多発した人間関係のトラブルや幼さゆえのアクシデントも最近はめっきり減り、教室や廊下の壁にもめつたに穴が開かなくなりしました。毎日のようにその姿を見ているとなかなか気づかないものですが、彼らも着実に成長しているのだと感じます。そんな21期生もようやく第1チームを

終えました。この機会に、所期の目標が達成出来ているかを十分検証し、4月から始まる第2チームへ入っていかなくてはなりません。まず学習面ですが、駿台学力テストの比較で見ると、入学当初の成績は20期生とかなりの開きがありました。徐々にその差は縮まる傾向にあります。今後、全体としてのレベルアップはもちろん、上位・中位・

下位それぞれに応じた指導を強化し、個々の生徒が第2チームや第3チームで「戦える」力を付けていきたいと思っています。

次に部活面ですが、昨年夏に3年生が引退して21期生が最上級生になってから半年が過ぎました。部活ごとに新人戦の結果は様々でしたが、それぞれの部活で徐々に「先輩」としての自覚も芽生えてきているのではないのでしょうか。また、部活とは違いますが、22期生が核となる新生徒会もスタートしました。今回の役員選挙は近年まれに見る激戦で、生徒諸君の意欲の高さがうかがわれました。4月からは新入生も入ってきます。新会長を中心として立派なリーダーシップを発揮してほしいものです。

最後に生活面ですが、大部分の生徒は中学生生活にもなじみ、遅刻の少なさからも基本的な生活習慣は確立されているようです。ただ、バスの乗車マナーなどはまだまだな面も見受けられ、自力登校が実現できていない生徒も散見されるなど、更なる指導が必要な部分もあります。また、今後その発

生が危惧されるSNSなどのトラブル等に十分注意を払っていかなくてはなりません。4月からは第2チームに入ります。中高接続の重要なチームであると同時に、学力の基礎確立のチームでもあるこの2年間を、有意義かつ効果的に過ごすためにも、各ご家庭の変わらぬご協力をお願いしたいと思います。

駿中22期生保護者へのメッセージ

一学年主任 中込 範彦

駿中22期生も入学してもうすぐ1年になります。中学校にも慣れ、学校生活を楽しくしているように思います。学習への取り組み方、学校生活のルール・マナー等を自

分なりに理解し実行しているように思いますが、当たり前ですが大人から見るとまだ十分ではありません。

駿高生は高校を卒業すると、殆どの生徒は親元を離れひとり暮らしを始めます。社会人としての第一歩を踏み出すわけですが、社会の一員としての常識ある行動・発言、正しい人間関係の構築等いろいろなことが必要になります。更に自分の適性を判断し、職業や職種を自分で決定することもしなければなりません。学力は勿論ですが、22期生には社会が求めているもの、自己分析力、自分で判断できる力をつけて駿高を卒業してもらいたいと思っています。

昔の教えに「上農の教え」というものがあります。「上農は草を見ずして草を取る 中農は草を見てから草を取る 下農は草を見ても草取らず」です。転じて「進んでるのが人の上 言われてするのが人の中 言われてせずが人の下」とも言われています。生徒は学習、掃除、挨拶、行事などなど様々な場面や、その時々で「自主的にできる生徒」、「言われればできる生徒」、「言われても理由をつけてやろうとしない生徒」になります。学校と家庭では様子が違うと思いますが、学習や手伝い等、ご家庭の様子はどうでしょうか。

6年後には全員が何事にも積極的に取り組み、リーダーシップを取り、目標を達成する努力をする前向きな姿勢がある22期生になってもらいたいと思っています。そのために厳しく指導することもあるかもしれませんが、社会人として自立した常識ある人間に育てるために学年一同全力を尽くして指導していきたいと思っています。これまで同様、今後もご家庭でのご協力をお願いいたします。

小学校より

上手な叱り方、伸ばし方

校長 坂本 宏行

子どもはいたずらや失敗した時、「あ、これは叱られるな」ということを自分でも感じています。ところが予想に反して、親が何も言われないと子どもはホッとして、また同じことを繰り返します。それでも何も叱らなかつたら、子どもはどう思うでしょうか。「お母さんは、どうして叱らないのだろう。僕のことなんてどうでもいいのかな」と段々不安になってしまいます。

まず「叱る」と「怒る」は違います。「怒る」のは感情です。子どもの行為にヒステリックに怒鳴っても、教育的効果は望めません。私自身も振り返ってみると「叱る」より「怒る」ことの方が多かったと反省しています。「叱る」とはある程度の距離を置き、冷静にことの善悪を判断して、注意を与える行為です。心にゆとりもありますので、的を射た言葉がでてきます。しつこくに本当に効果があるのは、この「叱る」だけです。

次は、「その場で叱る」です。「あなたはあの時、こんなことしたでしょう！」などと時が経ってから叱っても何の役にも立ちません。親が気付いた時点で叱らなければなりません。人前で厳しく叱るのは、「みっともない」、「あらあら、イヤね」で済ませ、心の中で「あとで、ひどいからね」などつぶやいていませつか。けれども、躰に「あとで」は通用しません。

最後は、例外を作らないということ。昨日は叱られたその同じことを、今日は忙しそうにしていたので、うるさそうに睨ま

れたただけだった。こんな経験が重なると、何が良いことで、何が悪いことなのか子どもは判断の基準を失ってしまいます。

「長い」「くどい」結論だけ言ってしまうば済むようなことでも、お説教が何度も繰り返され、「昨日もこんなことしたわね」「先月にも同じいたずらをしてさんざん叱られてじゃないの」などと別の失敗や過去の過ちまで持ち出されると子どももうんざりしてしまいます。「お母さんだつて言いたくても言っているんじゃないよ。あなたのためを思えばこそ・・・」と言ってみても、ありがたがって聞き入る子どもはほとんどいないでしょう。親にとつて印象深いものであつても、子どもはきれいに忘れていきます。今、叱るべきことだけを「叱る」、これに尽きると思います。

さて、駿小八期生が卒業します。今までの積み重ねがありますが、元気があり、相手を思いやることができる、何事にも積極的に行動することができ、という個性を持った素晴らしい学年です。先生方もさまざまな研修や研究を重ね、経験を積んできており、熱心な指導に加え、保護者の皆様方のご支援ご協力もあり、立派な卒業生になりました。

それぞれが六年間で大きく成長し、一つの区切りを迎えます。本学園は、小中学校一貫校であり、校舎も同じ今井キャンパス内ですが、制服が変わり、あらたな友人が加わり、先生も変わりますが、本学園の校是である「チャレンジングスピリット」と「愛情教育」は変わりません。

八期生の皆さん、中学へ進学してもいろいろな事に「チャレンジ」してください。これからも学校や家庭は愛情を持って応援します。

第一回駿小音楽祭開催!

担当 依田秀樹・花輪悠貴

駿小合唱クラブと吹奏楽クラブは二月八日に、桃源文化会館桃源ホールにて、記念すべき「第一回駿小音楽祭」を開催しました。クラブ発足から、初めて行う自分たちが主役のコンサート。第一部では合唱クラブ・吹奏楽クラブによる演奏、第二部では合唱クラブの外部講師で、童謡歌手として活躍中の若林秀和さんによる演奏でした。

第一部の最初は合唱クラブの演奏。ホールで歌うのは二度目ですが、リハールの時には、「すごい響く!」「なんか上手くなったみたい!」など、ホールでしか感じる事が出来ない響きを楽しんでる様子でした。一曲目は『ふるさと』。この曲は平成二十五年度のNコン課題曲で、嵐が歌っている曲としても有名です。Nコン課題曲ということもあり少し難しい曲でしたが、子どもたちは一生懸命練習しました。二曲目は『いのちの歌』。この曲は昨年のNコンで歌った曲で、四月に発足して以来、一番練習してきた曲です。二度目の舞台ということもあり、自信をもって歌っている子どもたちの表情が印象的でした。



吹奏楽クラブは、『宝島』と『アナと雪の女王より』を演奏しました。テンポのいいノリノリの曲と、ゆったりとした聞かせる曲のメリハリがきちんとできるように練習してきました。また、本番直前のクラブ長の「6年生にとつて校外での演奏は、今回で最後です。悔いの残らないように、気持ちを合わせて演奏しよう。」という言葉で、子どもたちの気持ちが一気にまとまりました。本番では、その成果を存分に発揮し、楽しんで演奏することができました。ステージ上でキラキラと輝く姿を見せてくれました。

一部の最後は、合唱・吹奏楽クラブの合同ステージ『ピリブ』と『風になりたい』を演奏し、会場のみんなで歌いました。会場が一つになった瞬間でした。

自分たちが主役の演奏会を開く経験を、ホールで演奏する楽しさを感じてほしいと思いついた演奏会ですが、子どもたちはこの演奏会に向けて本当によく頑張り、素晴らしい演奏会になりました。当日はあいくの雪でしたが、約三百人の方にご来場いただき、「感動した」、「第二回が楽しみ」など、たくさんのご感想をいただきました。今回は小学校だけでしたが、いずれは中・高も一緒になってこの演奏会が成長していければ良いなと感じています。第二回はどんな音楽祭になるのか楽しみですね。



高校より

短く長い三年間

指導監 石川 博

高校三年間が、長かったと思うか、短かったと思うか。それは、見方による。濃密で充実した三年間だった生徒は、過ぎ去る速度も速いので、短かったと感じるだろう。しかし、濃密であれば、身に付けたものも多い。中学卒業時の自分と現在の自分とを比べ、成長が実感できた時には、長い三年間だったと思えるものだ。

中学までは自然に成長できただろう。身長は伸び、五十メートル走も毎年速くなり、知識もどんどん増す。それが高校に入ると、身長の伸びは鈍化し、運動部に入っていないければ様々な記録も頭打ち。知識はさすがに増えただろうが、単純な計算の精度や速度は落ちていくかもしれない。

高校卒業後はますますその傾向が強くなる。全分野で自然に成長していくことは望めない。特定の分野を意図的に成長させていくしかないのだ。大学で学ぶことは「勉強」や「学問」以外にもたくさんある。正解が一つでない問題への取り組み方、異なる文化を持つ人々との関わり方、などの力を付けることが成長である。社会に出て、意識的に成長を続けなければ、取り残されてしまう。これは近代社会の宿命だ。さて、高校の三年間は、その後の人生の基礎を作る時期だろう。自分自身を振り返っても、読書・音楽の嗜好から集団内でのポジションに至るまで、当時、原型ができていた。もし、卒業生諸君が「短くて長い」高校生活を送ったなら、今後の人生も充実することは約束されたようなものだ。

卒業する君たちへ

副校長 上原 雅志

卒業していく愛すべき生徒諸君に、私の最後のお話。だから心して聞くべし。私の母校は、ほぼ全員が大学を目指す「曲がりなりにも」の進学校でしたが、三年間を通じて、理文の分けも業者模試もなく、芸術以外は全員が同じ科目を履修し、制服も、毎日のHRも、始業式も終業式も課外授業も、すべてこれなく、受験指導もありませんでした。女子さえいないのは大いなる不満でしたが、伝統の男子校なのでそれは仕方がない。朝の列車内で足を踏まれてストッキングが伝線するという女性からの苦情が絶えず、とうとう下駄履きが禁止になり、かくての後に私は入学しました。禁止になっていたはずなら、私も下駄を履いて通学していたはずで、全校生徒が数学は数日間で、理科は物理・化学・生物・地学、社会は世界史・日本史・地理・倫理・政経の全科目を学びました。歴史はもちろん人類の誕生から現代まで一部の省略もなし。学校は学問をやる所であって受験勉強などは、やりたい者が勝手にやるもの。だから、「この問題は〇〇年の××大の入試」などと教師が口にしようものなら、その先生は生徒から即刻軽蔑されました。

因果の程は不明ですが、勉強も先生も面白かった。私が学校という仕事場で職業人として楽しくやらせて貰っているのも、そういう高校時代を過ごしたことと関係している気がします。でもそれは高校時代に限りません。どこにいても同じ、功利を先にしたらだめです。広く知り、考えたり作ったりする楽しさが、己を動かし、人に力を

与えるのです。本当に人に伝えられるのは、弱肉強食の「生きる力」ではなく、楽しく共存するための知恵です。だから、学校は何の無理をしなくても、誰かが犠牲的な獅子奮迅をしなくても、生徒は自分の本能がそう働いて頭と体と心を躍動させるのです。そういう呑気で馬鹿な念仏を最後まで唱え続ける教師でいよう、そう心に決めて、巣立つていく君たちを見送ります。

君たちと過ごして、最高に楽しかった。あはよ、達者でな。

卒業に添えて

副校長 八田 政久

3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様におかれましても、お喜びのことと存じます。

3年生の皆さんにとって有意義な3年間だったでしょうか？駿高祭をはじめ楽しいことも多かったと思いますが、辛かったこともあったのではないのでしょうか？良い事も悪いこともすべて含めて皆さんの高校時代です。「あの時、こうしておけばよかった。」とか、「あの時、こつちを選択していたら、こうなっていただろう。」など様々な想いがあるでしょう。これから先の人生も、同じことの連続だと思えます。後悔のない人生はありません。後悔を少しでも少なくすることが出来るのは、自分自身でしかありません。だからこそ、分かれ道の選択は自分で決めるのです。親や友人、先生方に相談することは大切です。多くの人の意見に耳を傾けられる社会人になりましょう。ただし、最後は自分自身で決めてください。自分で決めたことでも、後悔することがある

でしょう。でも、自分で決めたことならば、納得することが出来るでしょう。どんなに困難な選択でも、自分で決めるのです。どんなに大きな後悔でも「一年経てばみんな過去」です。将来の自分にとって困難が大きければ大きいほど、大きな財産としてあなたの人生を価値あるものにしていくことでしょう。前を向いて歩いてください。

美術デザイン科学科長 岡田 昭夫

卒業生の皆さん、保護者の皆様ご卒業おめでとうございます。美術デザイン科での3年間はいかがでしたでしょうか。

今振り返ると、あつという間の3年間でした。そして美術デザイン科は変化の3年間でした。丁度長年勤務されていた先生方が退職され、ほとんどが新しい先生となり、年齢も一挙に若返りました。教科書が新しくなり、一部の行事が見直され、いろんな事が急速に変わりました。なんとなくあわただしい3年間だったことと思います。

例年入学してしばらくの間は、新しい集団ですし、環境も変わって色々な事が起こる物ですが、ちよつと多かったです。無事何人が卒業できるか、本当に心配でした。欠席も多かったし、成績も、実習の提出状況も良くなかった。応募作品の受賞状況を貼りだしているのですが、皆さんの学年が少なくて、かわいそうな気がしていました。

それでも数人が残念ながら別の道を選んでしまいましたが、多くの生徒は卒業できることになりましたし、全国総文祭に出場したし、今年度の受賞の半数近くは3年生によるものでした。まだまだ問題が山積みですが、少しずつ成長し、やろ

うという気持ちで育ってきたのでしょうか。さて、皆さんにとって高校卒業は大きな転機になります。自分で判断しなければならぬことがたくさん出てきます。一人暮らしをする者も多いと思いますが、これが結構大変です。さみしいし、どうしても時間にルーズになる。ゲームやネットばかりしていないで、自分のやりたいことを一生懸命取り組んでください。今まで培ってきた物も違うし環境やいろんな条件があるのと同じようにはいかないですが、必ずあきらめなければ何とかなると信じています。

3学年主任 後藤 和利

33期生徒諸君、卒業おめでとう。保護者の皆様、御子女のご卒業まことにおめでとうございます。

前にも話したことであるが、きみたちは学ぶために大学に行くのである。進学する人たちはそれを忘れてはならない。大学生活の髄は、最高の学問を自分の血肉にする時間を送ることである。物事を根本から理解することを敬遠し、目前の試験でとりにあえずの点が取れば結構という勉強には、実質的な学力の向上は全くない。このようなものでは勉強とは呼べはしない。真の学問に出会い、勉強が楽しくてしかたないと思える大学生活を送れることを望んでやまない。

また、思い通りに万事が運ぶと云うことは五歳の子供にも無理であって、残念な進路結果ということもある。そんな人たちの励みになればと思い、書く。若者の特権はいつでも何度でもやり直せること、だと思おう。これからの人生の中で後悔することが

あつても(たぶん誰でも何度かある)、若いうちなら必ずやり直せる。先の針路を修正することも可能であるし、一步戻ってやり直すこともできる。もちろん強靱な精神力と、鈍重に見えるほどの地道な努力は必要だが。人生において一旦立ち止るという機会は滅多にはない。いまはその機会を与えられたのだ。顔を上げよう。前を向こう。自分を見直そう。今年には新たな友を作ろう。辛いときに一緒にいるには友がいい。辛苦を共にした友は生涯の友となる。

さて、卒業式という私はエドワード・エルガーの「威風堂々」を思い出す。なかでも有名な一節は「希望と栄光の国」と呼ばれ、英国第二の国歌として愛されてもいる。私事だが大学の卒業式で、後輩が饒にと演奏してくれたのが嬉しい思い出である。きみたちはこれからそれぞれの道を歩んでいく。どの道も歩く君も今後の人生を威風堂々と歩んでいき、希望と栄光に満ちた未来を迎えることを祈る。卒業おめでとう。健康と健闘を祈る。

3学年副担任 齊藤 雅夫

パトラッシュ、僕はもう疲れたよ。

卒業する若い君たちに、期待します。何のために生きるのか。それは理想社会建設のために、力となることです。私が学生の頃は、マルクス主義が流行していました。今はピケティです。資本主義の必然で格差が拡大していけば、マルクスは革命の必然を主張しました。ピケティは国際的な資本(富裕層)への課税を唱えています。

革命によって格差の拡大を解決していくのか、それとも様々な政策(知恵)によっ

て革命の回避が可能なのか、時間との闘いです。

ネロは疲れ果てて眠ってしまいました。若い君たちはへこたれず、あきらめず、学び、考え、チャレンジしていきましょう。

3学年副担任 奥山 昭隆

卒業おめでとうございます。

駿台での三年間はあなた方を成長させ、変化させてくれましたか。当然ですが一年生の時と今とはみなさんかなり成長し、変化したように感じます。四月からは新しい生活が始まり、それぞれ違う目標に向かって、学問に励んでください。そしていろんなことに目を向け、前向きに、積極的に行動してください。辛いこと、失敗もあると思いますが、みなさんの「若さ」があれば何でも乗り越えられます。そう信じて下さい。人に左右されることなく、自分に甘えることなく楽しんで下さい。

3学年副担任 ピーター・フレイザー

Congratulations to the Class of '15 on your graduation. During your three years of high school life, so much has changed in the world. You will now step out into that world on your own for the first time. In a sense you are free, but the next few years will be vital in preparing to play an active role in society, so make the most of this precious period of your life.

進路指導部 小笠原 理

ご卒業おめでとうございます。

努力を重ねて、合格を勝ち取った人、おめでとう。もしくはこれから勝ち取る予定の人、おめでとう。そんなみなさんの経験を活字にして下さい。毎年作成している「進学参考資料」に載せる合格体験談を募集します。合格の感動が失われぬように書きましよう。詳しくは進路室の小笠原まで。

「第一志望は、ゆずれない。」という決心でもう一年頑張ることを決めた人。そんな人も応援します。各種相談に乗りますので、そんな人も進路指導室まで。

進路指導 岸川直紀

33期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。この一年間皆さんの様子を進路指導室から眺めてきました。四月の始業式↓夏休み↓二期期↓冬休み↓入試を経て皆さんの顔つきは、少しずつ大人っぽくなってきたように思います。やはり「入試」という試験は人を鍛えるのでしょうか。

さて、高校を卒業して一〜二年の間は人生で最も自由に時間を使える時期だと思います。様々な選択肢の中から、時間をかけて、自身の将来を左右するであろう大切なものを選ぶことを期待しています。

駿高進学「あたり」

駿中20期生への激励のメッセージ

教務主任 内山 晶夫

卒業おめでとう！同時に新たな旅立ちの日を迎えました。

皆さんにとってこれからさらに高いレベルでのチャレンジが待っています。

常に高い志をもち続け、困難にめげずに人生を力強く切り開いて下さい。

次なるステージでの活躍を祈っています。

三年A組担任 塩津奈央

20期生のみなさん、ご進学おめでとうございませう。まだあどけない表情で迎えた入学式。あの日からもう3年の月日が経ちます。全てのこと

が初めてとまどいながらも、先輩の背中を追いかけた1年生。後輩という存在が生まれ、先輩としての自覚を持った2年生。第2チームに突入し最高学年になり、「高校」を意識し始めた3年生。この3年間、非常に充実した日々を送ることが出来たと思います。時には楽しい時間だけではなく、辛い時、苦しんだ時もあったことでしょう。しかし、みなさんはここまで中学校生活を乗り越えてくることが出来ました。私は、そんな20期生の成長を身近で見守ることが出来て本当に嬉しく思います。高校へ行っても、中学校で培ったことを生か



して頑張ってください。みなさんなら大丈夫。応援しています。

三年B組担任 鶴田和也

20期生の皆さん、卒業おめでとうございませう。この学年に関われた1年間はとても早く、充実した時間でした。普段の生活や学校行事などを通し、皆さんの成長を感じることができました。まだまだ幼さの残る言動、行動はありますが、物事の考え方や生活態度など大人になつたと思えます。やらなくてはならないことは何か。自分で考えて行動できる力も身につけていると思えます。今まで携わってきた方々に感謝の気持ちを持ち、中学校生活を振り返り、高校生活の目標を決めてください。



仲間と切磋琢磨しながら、自分自身の可能性を広げられるような高校生活にしてほしいと願います。これからもっと大人になつていく皆さんとまた会える時間を楽しみにしています。

三年C組担任 中島 朋子

『知識を持っている』だけじゃあ、駄目です。実際に、何事かが、できなければ。『知っているだけ』とは、実に貧弱。知ることと、できることの両方が備わつてこそ、

人は、人らしくなつていくと思えます。』

—最近心に来た言葉です。高校時代というのは、自分が大学や将来専門的にどういう学問を深めたいかを見極める場所だと思つています。全教科で中学分野をより深くみていくことで、自分の進路を具体化していく、次の3年間はそういう場所になつてほしいと願います。



駿中生活は楽しかったですか。駿高生活は、さらに厳しくも楽しいことが待っているはず。過去が最良ではなく、これからの地が最良となりますように。すべては気の持ちようです。前向きに、ひたむきに。進学、おめでとうございませう。

三年D組担任 山岸 航

20期生のみなさん、高校への進学おめでとうございませう。みなさんとは3年間の月日を共にすることができましたね。本当にあつという間でした。あの入学式の日が本当に、つい最近の出来事のように思い出されます。見た目では小学生と大差のない幼さが残り、制服も真新しくつたですね。新しい友達ができるだろうかと、不安そうにしていた様子を思い出しま



す。

これから次のステージに進むわけですが、夢に向かって、努力を惜しまずに励んでください。今の時点で夢を決めつける必要はないですし、安易に方向を絞る必要もないと思つています。ただ何に対しても全力で、誠実に取り組んでください。大きな夢を見たいれば、いつか小さな夢が叶うかもしれませう。

この校舎、この仲間で過ごしたのは、ほんの人生の1ページ。それでも心に強く、青春が焼き付いてきているのなら、教員として非常に嬉しく思つています。これから何度も壁に突き当たるでしょうが、精一杯頑張つて。これまでありがとう。

三学年副担任 出澤 郁美

15まで人を育てるといふのは、並大抵の愛情ではできません。幼い頃は夜泣きにつき合ひ、大きくなれば気分のむらにつき合つて、ここまで育ててくれたのです。皆さんに気づかれることはなくとも、毎日弛みなく愛情は注がれています。

皆さんは、まもなく無事義務教育を終え、自分の意志で進学します。これからは、自分の人生を大事にすることで、これまで育ててくれた家族に恩返しをして下さい。 どういう大人になりたいか考え、一歩一歩その姿に近づけるよう努力を惜しまない高校生になつて下さい。目標を見失わなければ叶いますよ。応援しています。

三学年副担任 原 大介

「生きていて一度も楽しかった事がない。」私の母の言葉です。人生が失敗ばかりで辛い事ばかりの人がいます。しかし成功を掴むためには挑戦を続けるしかありません。

挑戦、それこそが人生です。

しかし、そうはいっても辛い事に直面し、逃げ出したくなる時もあります。そんなときはこんな言葉を鏡に向かって叫んでください。

「自分ならできる!」「大丈夫だぞ!」

言葉には魂が宿っています。毎日、前向きな言葉を出していれば、その言葉が体に染み込み、自然と前向きな行動がとれるようになり、困難に立ち向かえます。高校生活を充実させるために、様々なことに前向きに取り組んでください。

二年A組担任 中村 圭世

ご卒業おめでとうございます。20期生の皆さんは、いつも明るく元気で、学業に対する姿勢もとても意欲的で、教えていても楽しい学年でした。高校進学後もその前向きな気持ちを持ち続け、様々なことに積極的にチャレンジしてください。

二年B組担任 新田 真也

「難しく考え出すと 結局すべてが嫌になって ずっとと逃げだしたくなるけど 高ければ高い壁の方が 登った時気持ちいいもんな まだ限界だなんて認めちゃいないさ」(Mr. children「終わりなき旅」より)

壁を乗り越えて、大きく成長していつってください。卒業おめでとう。

二年C組担任 鹿山 さおり

3年間。これは、この先実際にみなさんが家族と過ごす時間です。正確に言うならば、過(こ)すことのできる残された時間です。大学進学で故郷を離れる前に、たくさん話して、泣いて笑って、たくさん親孝行して

下さい。

二年D組担任 野倉 英明

義務教育が終わり、学問を更に追求する意思を持つ者だけが高校へ進学します(というのがあるべき姿なのですが巷にはとてもそう見えない高校生も散見されます)。自分の目標を見つけ、その実現に向けて努力し続けてほしいと思います。

二学年副担任 山口 倫明

これからの皆さんに期待することを伝えます。それは、「ABCD」です。「A」あたりまえのことを、「B」ばかにせず、「C」ちゃんと、「D」できる人

案外、大人でも完璧にできているかと問われると、返事に困る人も多いと思います。さらに、こうしている人を見かけると、ひからかすことさえあります。しかし、いろいろな場面で最後に頂点を勝ち取るのは、「ABCD」が成せる人たちです。みなさんの活躍を祈ります。卒業おめでとう。

二学年副担任 吉田 脩人

ご卒業おめでとうございます。中学の3年間で学んだことを活かし、青春を突き進んでください。

中学での経験は高校でもきつと役に立つはず。勉強、部活、e.t.c. 活躍を心から期待しています。

一年A組担任 羽澤 健

いよいよ4月から高校生ですね。高校生になると中学校より自由な時間が増えます。それは自由な時間をどのように使うのか、自分の責任において決定・実行することです。有意義な時間を過ごせる高校生

になってください。

一年B組担任 武川 公貴

20期生のみなさん卒業おめでとうございます。高校では夢や目標の実現を目指して、充実した学校生活を送ってください。また、駿中の卒業生としての自覚を持ち、後輩たちの良き手本となる駿高生になってください。期待しています。

一年C組担任 牧 和弘

卒業おめでとう。「夢なきところに努力なし・目標なきところに到達なし・計画なきところに実行なし・錬成なきところに熟成なし・反省なきところに進歩なし・苦悩なきところに歓喜なし」

一年D組担任 手塚 美樹

20期生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。これから始まる高校生活を、心待ちにしていることでしょう。チャレンジングスピリットの精神を忘れず、仲間を大切に、夢の実現に向けて、切磋琢磨してください。

一学年副担任 内藤 伯哉

卒業おめでとうございます。心から祝福を申し上げます。高校は中学よりも自由な部分が多くなります。怠るも、努力するも自由です。一度怠ると、大学や就職後も怠る人間になります。逆に努力のしすぎも禁物です。

自分なりの息抜きを見つけてストレス社会に負けない土台作りをしてください。

英語 Christopher John Magill

To everybody graduating in 2015, I have really enjoyed teaching you this year. Thank you for all of your hard work and energy. Wishing you the best of luck for High School!

養護 畑 明日香

20期生のみなさん、卒業おめでとうございます。

これから先、みなさんの人生にはいろいろなことが起こると思います。思うようにならないことが続いても、何もかも投げ出したくなることもあるでしょう。そんなとき、できることが限定的になってしまつたら誰かの力を借りることも方法の一つです。たつた一度の人生を大切に過ごし、振り返ったときに良い人生だったと思えるように心がけて下さい。

司書 辻 直子

「群れない・慣れない・頼らない」これは、日本画家の堀文子さんの言葉です。この言葉を実行することは、なまはんかな気持ちではできません。楽な方向へ行こうとする自分を、どうやって律していくのか、先生はいつも考えています。

みなさんは、高校生になった時、何を目標に掲げて日々を生きようと思つていますか。どんな夢を持っていますか。大きすぎるぐらいの夢をぜひ持って、日々を過ごしてほしいと思います。

言葉が人生をつくる。いつも明るい前向きな言葉を自分にたつぷり与えましょう。自分を生かせるのは、自分しかないのですから、自分を大切に、大きく花を咲かせてください。卒業おめでとうございます。

卒業特集

どんなときも

六年一組担任 花輪 美樹

「どんなときも どんなときも 迷い探し続ける日々が 答えになること ぼくは知っているから」これは、八期生が合唱した「どんなときも」のフレーズです。

この歌詞は、思春期を迎えた八期生にとつてぴったりの曲で、自分に言い聞かせるように歌う姿が今でも印象に残っています。

どんなときも、学校には先生がいる、友達がいる。八期生はそんな環境を精一杯楽しみ、毎日過ごしていたように思います。教室で繰り広げられたドラマは、どれも、

「仲間が好き・人間が好き」という気持ちが根本にありました。その中で、共に悩み励まし、笑い合い、成長していく八期生にとことん付き合い、卒業までの二年間、時間を共有できたということは大変嬉しく、誇りに思います。

そんな八期生六十八名も、三月十四日、小学校の学び舎を卒業し、次のステージへと進みます。環境は変わりますが、どんなときも仲間がいることを忘れず、切磋琢磨しながら、また新たな気持ちで第一歩を踏み出して下さい。そして、どんなときも周りの人を思いやる気持ちを忘れず、歩んでほしいと願っています。卒業おめでとう！

八期生の発揮力

六年二組担任・学年主任 奥村 貴子

八期生とは四年生の頃からの付き合いになります。学年テーマを「礎」↓「しん」

↓「発揮」とし、学年全体のイメージ像を飾ってきました。八期生は学年テーマにあつた正に人間として大切な礎を積み重ね、自分自身の芯を持ち、そして仲間と共に歩むことに喜びを持てる学年に育ちました。よく笑い、よく喧嘩もし、人一倍食べることに競争心を剥き出しにし、係りの仕事にはプライドを持って取り組む、公正平等を理解しようとする自分にかしくない言動を日々心がけ、正々堂々と胸をはって学校生

活を送ることができたと思います。これぞ八期生が力を発揮した軌跡だと卒業を迎える今、大変うれしく感じます。「チャレンジング・スピリット」は、駿小生活六年間の中で努力する心や、挑戦しようとする気持ちを高めてきました。成功の反対は失敗ではない！何もしないことである！挑戦なくして成功はありませんし、学びもないでしょう。駿小で学んだ多くのことを自分の自信にかえて、これから先の人生を思う存分、羽ばたいてほしいと思います。八期生のみなさん、卒業おめでとう！どこにいても、先生たちはみなさんを応援しています。

6年間をふり返って 私のチャレンジングスピリット

<p>漢字 坂本大地</p> <p>毎日の学習に専念しました。 大超</p> <p>何事とも自分の出来るせいはいの努力をした。 朝野</p> <p>友達を大切にできる事 大超</p> <p>何事も全力で一生懸命頑張った！有泉 達</p> <p>宿題を忘れずにやるようにした。 小澤 有史</p> <p>この六年間で集中時にやれた運動。 雨宮 崇徳</p> <p>児童会長に就任して自分の変わった事です。 吉澤 若菜</p>	<p>この六年間をふり返ってチャレンジングスピリットを大切にしたいです。 朝野</p> <p>他学年との交流を盛んにしたことです。 小澤 文</p> <p>何事もあきらめぬ心でがんばることを大事にしたいです。 朝野</p> <p>英検の練習をして5級と4級が受かったこと。 朝野</p> <p>人になるべくできることを頑張った。 朝野</p> <p>八期生と楽しい思い出が沢山あります。 朝野</p> <p>下級生とよく遊んだこと。 朝野</p> <p>迷わなかったこと。 朝野</p>	<p>六年間漢字をがんばってきました。 朝野</p> <p>自学は毎日丁寧に練習しました。 朝野</p> <p>勉強と運動を両立してがんばっています。 朝野</p> <p>苦手を漢字ががんばった。 朝野</p> <p>先生がすごいなと思いました。 朝野</p> <p>やるべき事はがんばった。 朝野</p> <p>あいさつを積極的に行いました。 朝野</p> <p>この六年間いろいろな事を経験することが出来たこと。 朝野</p>	<p>下級生に比べて上手に遊べた。 朝野</p> <p>毎日、頑張って気をつけて生活してきました。 朝野</p> <p>時間を見て、行動しました。 朝野</p> <p>なまぐさや雑物をしないように頑張りました。 朝野</p> <p>先生のお話を聞いて話聞きました。 朝野</p> <p>この六年間いろいろな事を経験することが出来たこと。 朝野</p> <p>国語の勉強が頑張りました。 朝野</p> <p>英検を2級まで合格しました。 朝野</p> <p>自分の学年よりも高いレベルの算数英検を受験しました。 朝野</p>
---	--	--	--

<p>あきらめずに色んなことをやりました。 朝野 忠弥</p> <p>赤組の団長をしました！！ 朝野 宗一郎</p> <p>国語や歴史を頑張りました。 朝野 大地</p> <p>あきらめずに色んなことをやりました。 朝野 忠弥</p> <p>赤組の団長をしました！！ 朝野 宗一郎</p> <p>6年生になって初めて部活に挑戦。 三井 健吾</p> <p>社会の地理や歴史を勉強しました。 朝野 大地</p> <p>勉強も頑張りました。 朝野 大地</p> <p>国語や歴史を頑張りました。 朝野 大地</p>	<p>4年生から毎日やっていた自学。 石川 みにい</p> <p>この6年間頑張った事は賞状です。 朝野 夏生</p> <p>英語を元気に頑張った。 朝野 大地</p> <p>苦手を社会や話術ががんばりました。 朝野 大地</p> <p>バスケットボールのバーカッソン。 朝野 大地</p> <p>算数や苦手のことで頑張りました。 朝野 大地</p> <p>周りの人を笑顔にすることができました。 朝野 大地</p> <p>よくはつたの野球を頑張りました。 朝野 大地</p> <p>登校時や校舎の掃除をがんばりました。 朝野 大地</p>	<p>あきらめずに色んなことをやりました。 朝野 忠弥</p> <p>苦手を漢字を頑張りました。 朝野 大地</p> <p>国語の文法や読解を頑張りました。 朝野 大地</p> <p>青組の副団長。 朝野 大地</p> <p>担任先生にたくさん話を聞きました。 朝野 大地</p> <p>合唱部の練習が頑張りました。 朝野 大地</p> <p>国語の漢字をがんばりました。 朝野 大地</p> <p>成績を上げるために自学をしました。 朝野 大地</p> <p>体育委員会の副委員長。 朝野 大地</p>	<p>家事全般は自分で頑張りました。 朝野 大地</p> <p>人前で話したり、発表したりする事。 朝野 大地</p> <p>ホールの役員を頑張りました。 朝野 大地</p> <p>長にたくさん立候補しました。 朝野 大地</p> <p>体育のテスト運動会を頑張りました。 朝野 大地</p> <p>国語の漢字をがんばりました。 朝野 大地</p> <p>成績を上げるために自学をしました。 朝野 大地</p> <p>運動会や練習会を頑張りました。 朝野 大地</p>
---	--	---	--

6年間をふり返って 私のチャレンジングスピリット

楽しかったね雪遊び

一学年主任 小西 静穂

一年生待ちに待った雪遊び。最初の予定日が雪のため延期になり、その時の残念だった気持ちを忘れるほど良いお天気に恵まれた二月四日に、カムイ御坂スキー場へ校外学習に行ってきました。欠席者もなく一年生全員で楽しい思い出をつくることができました。

家族でスキーに行ったり、今まで降った雪の後に、雪遊びをしたりした話は子どもたちから聞くこともありましたが、友だちと一緒に雪遊びはまた別の楽しみのようで、朝から元気いっぱい歌を歌いながらバスに乗ってスキー場に向かいました。



子どもたちがそり遊びをしたキッズタウンは一面真っ白。いっつも広い場所では思いつき走りまわることが大好きな一年生ですが、今回は雪の感触を感じながらゆっくり歩く子どもたちの姿がありました。

楽しみにしていたそり遊びは、最初は怖くてゆっくり滑る子もいましたが、慣れてくると楽しそうに歓声をあげてスピードアップ。お昼のカレーライスもいつも以上にたくさん食べ、午後は友だちと一緒にそりに乗って時間いっぱいまで楽しめました。

自然は、たくさんのお話を学ばせてくれる場所です。これからも身体で学ぶ感覚を大切に、残り少なくなってきた一年生の生活を思いつき楽しんでいきたいと思えます。

福よ来い！ 春よ来い！

小学校教務 嶋田 顕

駿小では年初めにどんど焼きを行い、無病息災や書き初めを投じることで書の上達を願います。その際、櫓と共に燃やす正月の松飾りやお守りに神様が宿っていることから『どんど』尊いもの』という意味があるそうです。それを焼くのでどんど焼き。

また「どんど・どんど」と囃すことからどんど焼きと言うようになったという説もあります。今年以上説明に加え、煙に当たると虫歯にならないという説を話したところ、大きな口を開けて、拝む姿が多く見られました。さて、子どもたちはしっかりと願いを込めて、お祈りできたでしょうか？

昔から続く伝統行事には日本の四季折々の季節感がしつかりと込められています。毎年春分の日に行う本校の豆まき集会も、冬から春へと移り変わる季節感を感じる大切な学校行事の一つです。豆をまくのは、『魔の目(まめ)』を狙って投げつけ、『魔を滅する(魔滅(まめ))』という意味から。しかし、生の豆を投げると、拾い忘れた豆から『魔の芽(まめ)』が出てきてしまうので、炒った豆を使うのだそうです。さらに、『炒る』は『射る』にも通じるといいます。

すから、古来の人々が考えた知恵の奥深さには感嘆するばかりです。今年はずくし委員会会の五・六年生が鬼役として各クラスに出張しました。「鬼は外！」という掛け声が学校中に響き渡る一方、退散する鬼に向かって「鬼さんまた来てね！」と呼びかける微笑ましい一年生の姿が見られました。ちなみに、その日の給食は恵方巻であったことは言うまでもありません。子どもたちは黙って、食べられたでしょうか？

未来の駿高四十期生

五学年主任 山下 潤

八ヶ岳風が吹く一月二十八日、社会科学見学の一環として五年生が駿台甲府高校を見学しました。



小学生による高校見学は初めての取り組みであり、高校の先生方には多大なるご協力をいただき実現しました。到着後、学食で駿台名物のカツカレーもいただき

ました。校内見学では、高校生の授業見学だけでなく、サテネットを実際に体験したり、進路指導室で赤本や大学のパンフレットを見たりしました。初めての体験に子どもたちも緊張していましたが、最後に今井キャンパスにも4月から導入される人工芝で思い切り体を動かすことができました。裸足になって走ったり、組立体操やサッカ

ーなどで感触を楽しみました。小学生と高校生が交流する姿も見られ、駿小出身者が大学合格の報告に来てくれるなど、中高一貫校の良さを改めて感じる事が出来ました。



五年後には駿高四十期生となり、駿台甲府高校を支える原動力として活躍してくれる日を楽しみにしています。

スケート教室

四学年担任 望月一志

二月四日(水)に小瀬スポーツ公園アイスアリーナにてスケート教室を実施しました。毎年、三・四年生が一緒に行いますが、昨年度は大雪の為、スケート教室を行うことができませんでした。その為、四年生も初めてのスケート教室となり、三年生と共に楽しんできました。

午前中の二時間は、スケートリンクを貸し切りで山梨県スケート連盟の方に指導を受けました。スケート靴の履き方や滑り方、止まり方を学びました。履きなれない靴に、足を痛そうにしている児童もいましたが、これもいい経験になりました。滑り初めてすぐに、コツをつかんで滑れるようになり



たり、何度も何度も転んは立ち上がり、上手に滑れるように、一生懸命滑っていました。午前中が終わると、待ちに待った、お弁当です。二階の陽当たりのいい場所(ちよつと陽

当たりが良かったです)で、おいしくいただきました。午後はフリー滑走で、一般のお客さんと一緒にリンクを滑りました。みんな滑ることの楽しさと、リンク内の周回の仕方や公共の施設内の使い方を守り、有意義な一日となりました。

スケート教室をきっかけに、多くの児童がスケートやスキーといったウィンタースポーツに興味を持ち親しんでもらいたいと思えます。

